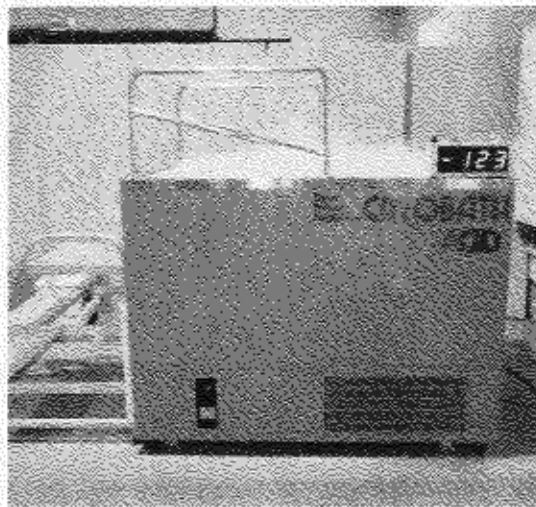


# ヘルスケア事業参入



## エイディーディー

# 冷却療法装置を開発

【静岡】エイディーディー（静岡県沼津市、下田一喜社長、055・943・6371）は、クライオセラピー（冷却療法）装置「クライオバス」を開発、ヘルスケア関連事業に参入する。チラーなど超低温機器の技術を応用した。今春に受注を開始する。価格は800万円（消費税抜き）と他社従来機に比べて半分以下とし、ランニングコストも大幅に抑えた。2023年5月期に同事業で売上高36億円を目指す。

クライオセラピーは、気吹き出し口の温度液体窒素を用いて約50度〜約100度C（冷

気を発生させた超低温）キャビン内に、2〜3分程度入る全身冷却療法。全身冷却により毛細血管が収縮し、常温に戻ると血管が広がり、血流を促して疲労回復効果を得る。

海外のトップアスリートが体調管理で取り入れる例が増え、関心を集めている。クライオバスはプロサッカーチームなどに提案して

超低温機器技術を応用したクライオセラピー装置「クライオバス」

いく。同装置は液体窒素に代わり、数種類のフロンを採用。約120度Cで関西大学、鳥取大学で人体への影響や効果の評価試験を行った。

液体窒素のように補充の必要がなく、ランニングコストの負担が少ないことからフィットネスクラブなどに装置を貸し出し、収益を得るフランチャイズ方式も導入する予定だ。エイディーディーはチラー修理を手がけるベンチャー。自社の超低温技術を応用し、次々に事業領域を拡大しており、ヘルスケア分野参入はその一つ。コロナ禍にあっても増収基調にあり、21年5月期は売上高8億10億円を見込む。